

県民から信頼される教育行政を進めるための5か条

令和2年1月30日
教 育 長

1. 自分たちの都合で解釈しない

自分の仕事が何に基づいて行われているのか。関連する規定を確認することが大事です。その際、勝手に解釈しないこと。組織の都合で解釈を曲げない、ということを常に意識してください。

2. 「これまでどおり」はダメ

世の中も、県民の意識も、仕事のやりかたも、常に変わっています。これまでどおりに行うことが正しいとは限りません。「前例踏襲」を繰り返す中に、間違いが生まれることが多々あります。「前例踏襲」は絶対ダメ！です。

3. 「他の県もやっているから」もダメ

他の県も同じような事務処理をしているから大丈夫だろう、と考えるのもやめてください。障害者雇用水増し問題のように、全国的に間違っていることだってあるのです。真っ新たな目で、自らの仕事の確認をしてください。

4. 疑問を大切にす

仕事をする中で「おかしいな？」と思ったら、その疑問をないがしろにしないでください。間違いかもしれないと心配せずに、必ずまわりの職員に聞いてみてください。小さな疑問こそが大きな事故を防ぐのです。聞かれた人も、疑問を真摯に受け止め、考えてください。

5. 上司が部下を育てる

職員がその能力を高め、力を十分に発揮することが、信頼される教育行政につながります。そのために、上司が部下をしっかりと育てていかなければいけません。課長、副課長、主幹、主査、それぞれの段階で、部下職員を育成する意識を持ち、指導を行ってください。